

【本文書の事業アイデアが満たしている条件】

1. まだその事業で大成功しているプレイヤーがない
2. 将来的に市場全体が伸びていく市場を狙っている
3. ビジネスモデルが複雑すぎない

【おことわり】

1. 筆者は化学の専門家ではなく、専門家の視点からすると、  
「こんなことが原理的に実現できるはずがない」  
という事業アイデアが入っていることがあります。  
実際のサービスでは、そのような場合、すぐに次の事業アイデアを案出いたします。
2. 本文書にリストされた事業アイデアは、すべての事業プランがそうである通り、あくまで初期仮説にしかすぎません。  
したがって、顧客／エンドユーザに対する仮説検証なしでそのまま実現しても、事業の成功は保証いたしかねます。
3. 本文書の事業アイデアの中には、「それは別の技術で実現可能」という事業アイデアが含まれます。しかしその場合、ChatGPT は、グンゼ社の持っている既存の技術で実現が検討できるもののみを出力しています。形はどうあれ、最終的にグンゼ社が新しい収益源を得られることを最優先に考えているためです。

課題：グンゼ様の要素技術

「プラスチックの包装フィルム（PETボトルの収縮フィルム、冷凍食品等のバリアフィルム等）にフィラーを高分散する技術を有しています。

この技術により、プラスチックに導電性、気体透過性、光学透過性等の機能を付与できたり、複数の機能を持った膜を多層にしてフィルム製造できます。

1枚のフィルムに様々な機能を持った層を積層することで、これまでにないフィルムの製造ができるため、この技術の活用方法について一緒にディスカッションさせていただきたいです。」

出典: <https://spready.jp/projects/1719>

グンゼ様のこの技術について、以下では事業アイデアを考えていきます。

ビジネスアイデア 1.

## 都市農業のためのスマート温室フィルム

### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼの先進的な分散技術を使用して、都市農業の温室用の多層プラスチックフィルムを開発します。これらのフィルムは、複数の機能を組み込むことができます:

1. **層 1:** ソーラーエネルギーをキャッチするための導電性。これは、温室システムの電源供給または都市の電気システムにフィードバックするために使用することができます。
2. **層 2:** 植物のための最適な酸素と二酸化炭素のレベルを保証する強化ガス透過性。
3. **層 3:** 光合成を最大化し、植物の成長を加速する可能性がある光の波長を最適化するための調整された光学透過性。

### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

2023 年の記録的猛暑と豪雨で、主に路地裏野菜を中心に農作物が畑で腐り落ち、野菜が日本各地で品不足に陥った。

[YouTube のニュース：野菜が販売できない?! 猛暑で農作物に深刻被害 収穫前に腐りドロドロ](#)

これに対策するため、多くの農家がいま以上に温室に頼って農作物を育てる状況が考えられる。

一方で、今年のように重油価格が高騰し、路地裏栽培よりはるかに電力を食うビニールハウスの導入をためらう農家も多くなるだろう。したがって、層 1 でうまく太陽光エネルギーをキャッチすることができれば、電力を補填する温室は、注目を浴びても不思議ではない。猛暑であれば、ここで得られる電力が大きくなるのは当然である。

さらに、温室の多くは、農作物を育てるため、室内に二酸化炭素発生装置を設置している。層 2 がうまくフィルタリングすることで外気より室内の CO2 濃度を高くすることができれば、これも農家にとりメリットは大きい。同時に、二酸化炭素発生装置をわざわざ必要としないことで「大気中からより多くの CO2 を透過吸収する」と、SDGs の視点からもアピールが可能かもしれない。そうすれば、補助金/助成金を有効活用できる可能性が高い。

### 【戦略・パーパスとの合致性】

○グンゼの祖業である養蚕業に関係がある。

○グンゼはもともと農業に関する事業を行ってきた。一箇所からの給水で幅広く水を行き渡らせる「地水シート R」や、果樹大苗移植による根傷みを防ぐため不織布に特殊加工を施した「JMASTER」を製造販売している。

## 【検証の手順】

### STEP 1.

都市農家から順番に、顧客インタビューと Facebook 広告などで、どれだけの農家が温室の新規導入を考えているか、分析する。

### STEP 2.

STEP 1 で十分に TAM が大きいと判断された場合、フィージビリティスタディを行い、以下を突き止め：

- ①層 1, 層 2 だけでも開発可能か？
- ②可能だとしたら、生産コストはどれくらいか？

### STEP 3.

STEP 2. で生産可能そうなら、温室メーカーにもちかけ、末端販売価格を計算してもらおう。同時に、SDGs の視点から、農林水産省に話を持ち掛け、スマート農業機械等導入支援のような補助金を準備してもらったり、研究開発のために補助金を活用したりを考える。

### STEP 4.

必要なら、クラウドファンディングで追加の研究開発にかかる資金を集める。

ビジネスアイデア 2.

## 量子コンピュータ用の高機能シールドフィルム

### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

量子コンピュータは非常に高い計算能力を持ちますが、外部からの干渉に対して非常にデリケートです。グンゼの高分散技術を利用して、量子コンピュータ用の高機能シールドフィルムを開発します。このフィルムは、外部からの電磁波や他の干渉を遮断する導電性層を持っており、同時に冷却効果を持った層も含めることができます。これにより、量子コンピュータの安定性とパフォーマンスを向上させる新しい選択肢が提供されます。

### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

ChatGPT の量子コンピュータに関する理解は正確である。

(ChatGPT はファクトモデルではないので、事実かどうかを必ず確認する必要あり。)

「量子コンピュータを構成する量子ビットは、外部環境からの影響（ノイズ）に極めて弱く、重ね合わせ状態の喪失などのエラーが生じやすい。量子コンピュータを実現する上では、こうしたエラーにいかに対処するかが重要な研究課題となっている。」

[国立国会図書館調査と情報—ISSUE BRIEF— 第1139号 No. 1139 \(2021. 3. 4\) 量子コンピュータの研究開発と政策動向](#)

「量子コンピューターを冷却するためには、冷凍機が必要不可欠」

[量子コンピューターに極低温環境が必要な理由とは？](#)

また、量子コンピュータの市場規模は極めて大きい。

「量子コンピューティングの市場規模は、2022年に7億1,730万米ドルと評価され、2023年の9億2,880万米ドルから2030年までに65億2,880万米ドル（約9883億円）に成長すると予測されており、予測期間中に32.1%のCAGRを示します。」

[FORTUNE BUSINESS INSIGHT](#)

上記の課題、特に干渉に極めて弱いという課題が量子コンピュータを開発するメーカ（グーグルやIBM、Dウェーブ・システムズ、NEC）にとり非常に深刻であることを鑑みるに、干渉の問題をグンゼの技術で解決／緩和できるのであれば、非常にインパクトが大きいと思われる。

売り先がマンモス企業であり、深刻なペインを解消するので、単価は圧倒的に高価でよい。

**【戦略・パーパスとの合致性】**

もともとグンゼは電子部品を生産している。

**【検証の手順】**

**STEP 1.**

量子コンピュータに関する参考文献を調査したうえで、量子コンピュータのメカニズムに詳しい専門家10人にビザスクなどで接触し、外部からの電磁波などの干渉をどの程度緩和すれば開発がどれだけ助かるのか、を定量的に聞き出す。

**STEP 2.**

フィージビリティスタディを行い、STEP 1の数値が達成できそうか、突き止める。

**STEP 3.**

試作品が完成したら、米国 Google の R&D 機関に働きかけ、有償の PoC を行う。

(なぜ NEC でなく米国 Google か？米国の企業の方が新参者のプレイヤーに寛容だから。)

ビジネスアイデア 3.

### 神経インターフェース用多機能フィルム

#### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼの高分散技術を活用して、神経インターフェース技術のための多機能プラスチックフィルムを開発します。このフィルムは、脳とデバイス間の信号伝達を助ける導電性層を持っており、その上で脳の安全と快適さを保つための特別な保護層も持っています。また、フィルムの光学的な透明性は、デバイスのビジュアルフィードバックや光刺激のために最適化されています。これにより、神経インターフェースの領域でのデバイスのパフォーマンスと快適さを向上させる新しい選択肢が提供されます。

#### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

神経インターフェース技術は、BMI (Brain Machine Interface) / BCI (Brain Computer Interface) とも言われ、脳とデバイスを直結させることで、脳疾患系の病気の有効な治療方法となりうるとして注目されている。

「これまで脳神経系の疾患から来る身体機能障害や精神疾患などは生体機能を治療するしかなかったが、それが技術で解決できるようになる。BCI は運動障害や感覚障害の治療に臨床試験で使用されており、初期の研究では、脳深部刺激はうつ病などの神経精神疾患の治療法として有望であることが示されている。弊社は、四肢麻痺の人のためのコミュニケーション・インターフェースを構築しており、将来的には精神疾患にも応用できる可能性がある」と期待している」

[革新的治療を実現、ブレインマシンインターフェースが開拓する医療の未来 / Brain Machine Interface Opens the Future of Medicine for Innovative Treatments](#)

ChatGPT が出力してきたアイデアは、侵襲的 BMI の、埋め込み多電極・増幅器などのインプラントのパーツとして使われるものである。要は、ニューロン活動の記録や電気刺激などを受け取る電氣的接点の一部 ([ブレインマシンインターフェースの現状と将来](#))。

同技術の市場は非常に大きい。

「ブレインコンピュータインターフェース (BCI) 市場は、2022 年に 1,650 百万米ドルの市場価値から 2030 年末までに 3,772 百万米ドルに達すると予測されます。また、2022-2030 年の予測期間中に 12.54% の CAGR で拡大すると予測されます。」

[\(ブレインコンピュータインターフェース \(BCI\) 市場-アプリケーション別 \(医療、ゲーム/エンターテインメント、軍事/防衛、教育/自主規制、その他\) -世界の需要分析と機会の見通し 2022-2030 年\)](#)

**【戦略・パーパスとの合致性】**

グンゼはもともとメディカル事業部も持ち、同社の戦略と矛盾なく合致している。

**【検証の手順】**

**STEP 1.**

BMI/BCI の開発に詳しい専門家 10 人にビザスクなどで接触し、グンゼの持てる技術が、インプラントをどのような意味でどの程度改良できそうか？を聞き出す。  
その改良の度合いがどの程度であれば研究者にとって有意なのか？も突き止める。

**STEP 2.**

フィージビリティスタディを行い、STEP 1 が達成できそうか、突き止める。

**STEP 3.**

インプラントメーカーと接触し、STEP2 の結果をもって、事業的にペイしそうかどうかを調査する。

**STEP 4.**

事業的にペイしそうなら、クラウドファンディングで、追加の研究開発にかかる資金を集める。



## ビジネスアイデア 4.

### スマートパッケージ用先進フィルム

#### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼの先進的なフィルム技術を活用して、革新的なスマートパッケージフィルムの範囲を開発する。これらのフィルムには、温度感応型の色変化、新鮮度インジケーター、スマートフォンアプリに反応するインタラクティブな要素などの特徴を取り入れることができます。このようなスマートパッケージソリューションは、食品、医薬品、消費財分野で使用でき、製品の安全性と品質の監視の向上だけでなく、消費者とのインタラクティブなエンゲージメントも提供します。この技術は、消費者が購入する製品とのより多くの情報とエンゲージメントを求める傾向に合わせて、付加価値のある機能を提供することで、製品パッケージングを革命的に変える可能性があります。

#### 【富岡による事業アイデア翻案】

もしグンゼのフィルター技術で、経年劣化で変色する物質を包装にフィルムとして加え、病院で処方される、箱のついていない薬の使用期限（平均して3年目安）をカウントダウンすることができれば、大ヒット事業になる可能性が高い。

#### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

まず、スマートパッケージには、298 億 5000 万米ドル@2028 年と、非常に大きいマーケットがある。

#### [スマート包装の市場規模・シェア分析 - 成長動向と予測 \(2023 年?2028 年\)](#)

加えて、例えば、使用期限切れのテトラサイクリンの錠剤は変性している可能性があり、それを服用すると、ファンコニ症候群が発生する恐れがあるというように ([EPARK](#))、一部の薬には経年劣化により毒性を帯びるものがあるので、このカウントダウンタイマーにあたる技術を開発すれば、製薬メーカーはこぞってこの仕組みを導入しようとするだろう。ちなみにテトラサイクリンは抗菌薬として最も普遍的なものであり、全世界で毎年膨大な錠数の出荷があることは疑いがない。

#### 【戦略・パーパスとの合致性】

グンゼはもともとメディカル事業部も持ち、同社の戦略と矛盾なく合致している。

#### 【検証の手順】

(ほぼフィージビリティスタディのみが重要な活動となるため、略記)

ビジネスアイデア 5.

## 都市型緑化フィルム技術

### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼの先進的なフィルム技術を活用し、都市緑地や垂直農場用の新型フィルムを開発する。このフィルムは、光の透過を最適化し、様々な種類の植物に適した微気候を作り出すことで、植物の成長を促進するように設計されます。また、水分保持や緩効性肥料の統合といった特性を取り入れることもできます。このアイデアは、都市計画家、都市開発者、垂直農場の会社を対象とし、都市緑化イニシアチブに沿った持続可能なソリューションを提供します。

### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

シンガポールや UAE が先陣を切っている都市緑地・垂直緑地は、温暖化対策のため、全世界でこれから資金が集中するだろう巨大なエマージングマーケットになっている。

### [Three reasons why financial institutions should invest in green cities in emerging markets](#)

また、2023 年の全世界的な酷暑から、都市緑地がもたらす冷却効果にも注目が集まっている。見逃されがちだが、2023 年の夏に東京が非常に暑くなった要因の一つが、ヒートアイランド現象である。記録的な猛暑を経験したヨーロッパ諸都市も、都市緑地に本腰を入れ始めている。

### [欧州の夏の死因、4%は都市の気温上昇 緑化で抑制可能](#)

### 【戦略・パーパスとの合致性】

グンゼはサステナビリティの必要性を中計に盛り込んでおり、同社の戦略と矛盾なく合致している。

### 【検証の手順】

STEP 1.

都市緑地に詳しい専門家 10 人にビザスクなどで接触し、同時に、シンガポールの緑化計画を調査し、どのような課題をどう解決してきたかをヒアリングする。また、トークンなど、壁面緑化に注力するゼネコンなどにも課題をヒアリングする。

STEP 2.

STEP 1 で得られた課題を、技術で解決できるか否かについて、フィージビリティスタディを行う。

STEP 3.

STEP 2で実現性が高そうなら、都市緑地に問題意識がありそうな国のクラウドファンディングで、追加の研究開発にかかる資金を集める。

STEP 4.

クラファンで集めた資金でプロトタイプを作り、まずは東京都都市緑化基金の助成と、大学などの研究機関とゼネコンの協力を得て、東京都内の地方自治体（千代田区や豊島区？）相手にPoC（おそらく期間は1年間）をやってみる。

STEP 5.

PoCの結果をもって、世界でも建設を行っており緑化に力を入れている竹中工務店などのゼネコンに共同事業を持ち掛ける。

ビジネスアイデア 6.

### EC 用環境に優しい高性能包装フィルム

#### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

アイデアの説明: グンゼの先進的なフィルム技術を活用して、EC 配送用の環境に優しい高性能包装フィルムを開発する。このフィルムは生分解性があり、製品保護を強化しながら環境への影響を最小限に抑えるように設計されます。製品の表示用に透明度を調整可能な特性、温度感受性のある製品用の強化断熱などの特性を持つことができます。ターゲット市場は、持続可能な包装ソリューションを求める EC プラットフォームや企業です。

Protective Packaging for Delicate Items: The film could be used to wrap fragile items like electronics, glassware, or ceramics, providing enhanced protection during transit.

Temperature-Sensitive Products: For items like chocolates, cosmetics, or pharmaceuticals that require temperature control, the film could have insulating properties to maintain a stable temperature.

Adjustable Transparency for Display: The film could allow for adjustable transparency, enabling customers to see the product without opening the packaging, which is useful for quick verification upon delivery.

Customized Packaging Sizes: The film could be designed to easily conform to various product sizes, reducing material waste and offering more efficient packaging solutions for diverse product types.

Branding Opportunities: E-commerce businesses could utilize the film's surface for branding or instructional printing, enhancing customer engagement and communication.

Eco-Friendly Returns: For products that are often returned, like clothing or shoes, the film's durability and reusability would make the return process more environmentally friendly and efficient.

#### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

COVID-19 流行以来、配送用の包装のサステナビリティは、全世界的な問題になっている。にもかかわらず、まだ抜本的な解決策を提示した企業はない。

[コロナ禍で急増、通販の梱包ごみ 革新素材で削減へ](#)

もし、十分に廉価で、ごみ削減効果が高い包装材を開発でき、普及させることができた

ら、莫大なマーケットである。

**【戦略・パーパスとの合致性】**

グンゼはサステナビリティの必要性を中計に盛り込んでおり、同社の戦略と矛盾なく合致している。

**【検証の手順】**

**STEP 1.**

すでに世界に存在する、持続可能な素材の包装材を取り寄せ、その効果を測定する。  
また、EC サイトが包装材をいくらで仕入れているのかを調査する。

**STEP 2.**

競合の持続可能な包装素材の効果を有意に超える包装素材が開発できそうか、また、どれくらいのコストで製造できそうか、フイージビリティスタディを行う。

**STEP 3.**

STEP 2 の結果、費用対効果の高い製品が開発できそうなら、クラウドファンディングで追加の研究開発にかかる資金を集める。

**STEP 4.**

試作品を数百セット製造し、アマゾンジャパンに PoC を持ち掛ける。  
アマゾンは特定のパイロットユーザーのみに新機能を提供する仕組みを持っているので、Amazon 上で「ちょっとお高めだが、持続可能な包装材を選ぶ」というオプションを選ばせるなどして、エンドユーザー相手に実験する。

ビジネスアイデア 7.

## IoT 対応スマートフィルム

### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

アイデアの説明: グンゼの先進的なフィルム技術を活用して、IoT 対応のスマートフィルムの範囲を開発する。これらのフィルムは、窓、壁、さらには消費者製品などのさまざまな表面に統合でき、対話型インターフェースにすることができます。フィルムには、タッチ感度、環境データ収集（温度や湿度など）、情報表示の機能があります。この技術は、普通の表面を対話型のデータ駆動型パネルに変えることで、ホームオートメーション、小売体験、スマートオフィス環境を革新する可能性があります。

### 【富岡による事業アイデア翻案】

フィルムに導電性を持たせ、光の透過性をコントロールできることを利用し、大型タッチスクリーンの導電材料を開発する。これをさらにサステイナブルな材料にすることができればベスト。

### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

[新技術がタッチスクリーンの可能性を拡げる](#)

### 【戦略・パーパスとの合致性】

グンゼはもともとタッチスクリーンを製造している。

### 【検証の手順】

(ほぼフィージビリティスタディのみが重要な活動となるため、略記)

ビジネスアイデア 8.

## 産業用省エネフィルム

### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼの先進的な高分散フィラー技術を活用した高性能自動車フィルムの範囲を開発する。これらのフィルムは、自動車の窓、ヘッドライト、内部表面など、車両のさまざまな部分に使用できる。耐久性を向上させ、重量を減らし、エネルギー効率を改善することができる。さらに、窓用の UV 保護、ヘッドライトの透明性向上、または小さな傷に対する自己修復特性などの品質を持つこともできる。この製品ラインは、車両の性能と持続可能性を向上させるための革新的な材料を求める自動車メーカをターゲットにする。

### 【富岡による事業アイデア翻案】

もし [日本板硝子が提供している自動車用窓ガラス](#) よりさらに社内の気温上昇が抑えられるコーティングを、この技術の光学透過性を使って窓ガラスに施すことができれば、SDGs の視点から、オートメーカ・EV メーカにアピールすることができる。

また、都心のオフィスビルの窓ガラスなどにも転用が可能なはず。

さらに、Smart Film®のように、透明度を調整でき、プライバシーを保護したり、日光を調節したりすることができ切る機能を備えれば、強い。

### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

自動車用窓ガラス市場は、2026 年には 230 億米ドルに達するとされている。

[自動車用ガラスの市場規模・シェア分析 - 成長動向と予測 \(2023 年?2028 年\)](#)

本事業アイデアは、自動車用窓ガラスにいわば付帯する事業だが、同市場の CAGR に付随して本製品が売れるとするなら、決してその市場規模は小さくない。

### 【戦略・パーパスとの合致性】

グンゼはサステナビリティの必要性を中計に盛り込んでおり、同社の戦略と矛盾なく合致している。

### 【検証の手順】

(ほぼフィージビリティスタディのみが重要な活動となるため、略記)

## ビジネスアイデア 9.

### 先進的スマートサッカーボール

#### 【ChatGPT が出力した事業アイデア】

グンゼのフィルム技術を使用して「スマートサッカーボール」を開発する。このボールは、屋外プレイに不可欠な耐久性と耐候性を提供するグンゼの特殊フィルムで外層を作る。このフィルムには、ボールの動き、スピード、衝撃を追跡するセンサーを組み込むこともできる。このデータはスマートフォンアプリやコーチングシステムに送信され、トレーニングとパフォーマンス分析に貴重なフィードバックを提供する。さらに、このボールは重量とバウンドの特性を調整可能で、様々なスキルレベルやプレイ条件に適している。

#### 【想定される市場・ユースケース 初期仮説】

サッカーボールは安いものになると人工皮革は、ナイロンやポリエステル、弾性ポリウレタン樹脂で構成された布で縫い合わせられているため、ここにグンゼの技術を転用できる可能性は高いと思われる。そして、センサー内蔵のサッカーボールは、FIFA ワールドカップカタール 2022 で、審判を補助する目的で導入されている。導電性を利用してボールのどのあたりをどれくらいの圧でヒットされたのか、そして可能なら何らかの形でどのような回転がかかったのかを計測できれば、プロのコーチと選手に、貴重なフィードバックを与えるはずである。

最初に狙う市場は、国の主要産業としてサッカーが位置付けられているサッカー大国スペインである。いったんスペインが攻略できれば、全ヨーロッパへ勝手に市場は広がっていく。

#### 【検証の手順】

##### STEP 1.

極力プロサッカーに近い専門家 10 人にビザスクなどで接触し、打点や、どの程度の足の面積がそこに接したかなど、どんな情報がボールから得られれば選手にとってうれしいのかをヒアリングする。

##### STEP 2.

STEP 1 で得られた課題を、技術で解決できるか否かについて、フィージビリティスタディを行う。

##### STEP 3.

クラウドファンディングで追加の研究開発にかかる資金を集める。



#### STEP 4.

プロトタイプができたら、大学サッカーやJリーグユースなどに廉価で有償 PoC を実施し、フィードバックを得て、イテレーションで製品を改善していく。ある程度成熟したら、Amazon.co.jp で一般に販売する。

#### STEP 5.

日本市場でプロダクトのレベルを上げたら、Amazon.es で売り始め、スペイン国内で Facebook 広告を出し、Amazon.es にトラフィックを集める。

ビジネスアイデア 10.

高齢者ケア監視フィルム

**【ChatGPT が出力した事業アイデア】**

アイデアの説明: グンゼのフィルム技術を活用して、高齢者のケア監視用の先進フィルムを開発する。これらのフィルムは、高齢者の居住環境（床、壁、家具など）に統合され、動きを監視し、不規則な活動や転倒があった場合に介護者に警告します。フィルムには、圧力変化、動き、おそらくはバイタルサインを検出するセンサーが装備され、連続的かつ非侵襲的な監視を保証します。この技術は、一人暮らしやケア施設にいる高齢者の安全性と幸福を大幅に向上させ、彼らと介護者の両方に安心を提供することができます。

**【想定される市場・ユースケース 初期仮説】**

バイタルサイン測定機能がついた服はすでに市販されているが、難しいのは、独居高齢者の自宅に監視カメラを入れるというのは殆どの場合で現実的でなく、脳梗塞などで室内で突然倒れたときに、それを即座に検知する手段が、ほぼ存在ないということ。独居高齢者の自宅の床一面にセンサーを張り巡らすことができれば、高齢者も監視されている感覚がなく、しかも安心して暮らせるはずで、遠方に住んでいる家族も安心できる。

**【戦略・パーパスとの合致性】**

もともとグンゼは電子部品を生産している。

**【検証の手順】**

STEP 1.

生活空間の床全面を覆う、全面衝撃センサーになっており、転倒だけを高い精度で識別できるようなカーペット状の製品が開発できるか、フィージビリティスタディを行う。

STEP 2.

試作品ができたら、いきなりエンドユーザである高齢者やその家族に売るのではなく、徘徊防止のための様々な監視サービスを提供しているセコムなどに、有償の PoC を持ち掛ける。

STEP 3.

セコムがサービスの一環としてこの仕組みを組み込んだら、システム開発会社と連携し、独居宅で人が倒れたら自動で 119 番と遠方に住む家族に AI が電話連絡するシステム（すでに AutoReserve などのサービスがこれを実現）を構築。一般に市販する。